

事業報告書

団体名	こうのす国際交流市民の会	交付額	98,346 円
事業名	日本語ボランティア養成および日本語学習者発表 お国紹介	内容	新規及び 拡大事業
＜実施内容＞ A 研修会 ① サポート21の矢崎理恵先生をお招きして、現在の「外国人材の受け入れ・共生のための地域日本語推進事業」等の情報を学びました。 ② 具体的「can do」の考え方 文法中心ではなく、場面中心に学ぶ。 学習者の立場から教室活動を考えどんな教室がいいのか。 ③ 10人の日本語学習者、それぞれが考えたスピーチをした。 B お国紹介 キューバ カティア氏 キューバの 珍しい動物、植物、人々の日々の暮らし等を学んだ			
＜成果＞A ①現在日本の置かれた状況、埼玉の状況がよく分かった。 ②新しい教え方「can do」はとても効果的だが学習者や教える側にもかなり難しいと感じた。ロールプレイングで行った。日本人同士では楽しくできるが、文法が多様多様で私たちももっと勉強しなくてはと感じた。 ③スピーチはとても緊張したようだが日本語学習の意欲が増したように思う。 ④学習者側から話したいことを発進することの重要性を理解した。 ⑤毎年、市民参加のもと、行いたい事業である。 B キューバは遠くなかなか情報が入りにくい、カティア氏の話は興味深かった。 珍しい動物、植物、人々の日々の暮らしを、最後は皆でキューバのダンスをして、いい交流ができた。			
集客方法	広報掲載、団体ホームページの活用 施設の掲示板へのチラシ掲示等。	＜実際の取組＞ 事業参加者数：20人・29人 合計49人 市報「かがやき」に掲載・ホームページ 駅にチラシを掲示・会報に掲載	
会員を増やす取組	市民活動情報サイトの活用・団体ホームページの活用・掲示板へのチラシ掲示等。	駅や市民活動センターにチラシを掲示。 団体ホームページの活用 ロコミ	
「日本語で話そう」のスピーチイベントは毎年、必要かつ行いたい活動である。 日本語を教える側はいつも新しい情報に耳を傾け、学習者側に立った教室運営が必要。講師を招いた講習会を行い、ボランティアのブラッシュアップが必要と思う。			